

# 概要報告

実施期日	7月28日(火)【午後】
部会名	小学校 外国語活動部会

テーマ 『 コミュニケーション能力の素地を養う授業づくりについて 』

## 提案概要

### 〔実践に向けての課題意識〕

- ・外国語の授業に違和感（繰り返し言わせる教師主導の授業、子ども同士の普段の人間関係が出る無理なアクティビティ、答える・反応する子はいつも同じ、目的のないチャンツなど）を持ち、改善できないかと模索した。
- ・“担任だからこそできる授業づくり”をテーマとして置き、学級経営に繋がられる題材を選び、コミュニケーションが取れる活動を意識した授業形態になるよう工夫した。
- ・相手を思いやれない、感情をコントロールできない、自分の殻にこもってしまう子たちに対し、慣れない外国語という視点からなんとかして自分の思いを伝える、相手の思いを受け止める経験をさせ、意識した外国語活動を行うことによって、学級経営の改善を図りたい。

### 〔成果〕

- ・外国語を使って、なんとか話そうとしたり、受けとめようとしていたりする態度がたくさん見られるようになった。
- ・様々な取組を通して、外国語で表現することやクラスの友だちの個性に気付くことができるようになった。
- ・年間を通して取り組んだ英語の歌で、達成感を味わうことができた。

### 〔課題〕

- ・ティーチャーズトークを充実させ、より児童の興味を高められるようにしたい。
- ・児童が授業の終わりに書く振り返りシートの工夫。書きやすい、自己評価をしやすいシートの文言を考えていく必要がある。

## 質疑概要

○どうやって英語の歌を教えたのか。またどうしてこの歌を選んだのか。

→英語の上にカタカナをふって、右に日本語訳を載せたものを用意した。個人的な思いで選んだ歌だったが、歌詞を考えると子どもたちへのメッセージ性が強い歌で、みんな前向きに歌っていた。

○ここまでみんなが英語で発言できるのは素晴らしいと思った。日頃からどんな取組をしているのか。

→一人一言を意識して取り入れている。（朝のスピーチ、他の教科）

○評価が3つの観点に○がついているが。

→ワークシートのみなので、正直見取りは難しい。

○この単元の取組によって、この学年が終わる3月まで、子どもたちにどのような成長があったか。子どもたちが育ったところはどんなところか。

→英語で何を言っているのか、聞きたい・知りたいという思いが強くなり、学習に対しての意欲が高まった。また、クラスの仲間に対しても興味を持つようになり、積極的に関わろうという気持ちや他者理解ができるようになった。

○何とか担任も英語を使おうと努力はしている。ほぼFLTがメインで行うが、担任が行う外国語活動を模索中。FLTはどのくらいの頻度で入るのか。いつも担任がメインなのか。

→2週に1度、FLTが入る。隔週で担任が1人で授業を行う形。

## 研究協議概要

グループ協議を行い、日頃の外国語活動の取組の情報共有や、評価について話し合った。

（各グループの発表から）

- ・学習意欲を高めるために、高学年が英語劇を練習し、下の学年に披露する。カレーを作ったあとに、その手順を英語で説明する。オリジナルキャラクターを作り、英語で紹介するなどの工夫をしている。
- ・学校間、学年間で系統性はどうか。担任ありきの部分が大きく、差が大きい気がする。

ゲームで楽しく学ぶことが多いため、中学に入ってからギャップが大きいのではないかと考える。

- ・ 5年後、どのような評価になっていくのか不安。
- ・ 評価については、振り返りカードが有効だが、その工夫が必要。記述も必要ではないか。
- ・ 週1でどんな取組ができるのか、場の設定や工夫が必要。
- ・ 小さいハードルを1つずつ乗り越えさせるために、単元の組み換え等、見通しを持つことが大事。
- ・ 担任が行う外国語活動の利点は、子どもたちの実態をよく知っているため、興味関心を引く内容の設定ができること、異言語を学ぶという壁があるため、安心感を与えることができることが挙げられる。

## まとめ概要

- ・ 中学校に向けて、小学校のうちから英語に慣れ親しむことが目的であり、そのためには今回の授業のような五感を使った授業をする工夫が必要。
- ・ 英語を使うことを恐れがちな子どもたちに、「知りたい」「やってみよう」という意欲づけが外国語活動のメインとなる。
- ・ 水泳に例えると、泳ぎ方は中学校で学び、小学校では「楽しい!」「浮き輪を外して泳いでみたい!」という意欲や向上心を持たせてほしい。
- ・ 英語の定着が求められているわけではない自由度の高い小学校において、自分が担任として子どもたちに英語を通して何を育てたいかを考えてほしい。おもしろいと思う教材を試してみるなど。
- ・ クラスの誰とでも、分け隔てなくコミュニケーションがとれる、マナーを守って相手を思いやれる高学年であってほしい。
- ・ 一番大切なのは、自分だったら目の前の子どもたちにどのようにアプローチしていくか、どういった力を育てたいのかを授業者が明確にもつこと。
- ・ 子どもへの振り返りシートはあくまで自己評価。教師からの評価とはしない。シートの内容には、ここを育てたいという教師の思いをのせることができ、子どもにも伝わる。